

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

日本の株式市場

市場の動向

日本株式市場の代表的な指数である東証株価指数(TOPIX)は、16日比で2.90%上昇しました。
週前半は、本格的な企業決算シーズンを前に、積極的な売買が手控えられる中、堅調な欧米株式などを背景に、日本株式市場も主力株中心に堅調な展開となりました。週末にかけては、ECB(欧州中央銀行)初の量的金融緩和策が発表され、世界景気が刺激されるとの見方などから、上昇しました。

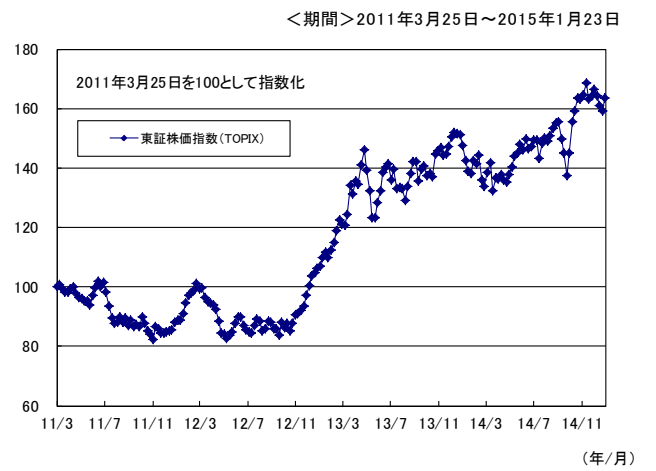
今後発表予定の主な経済指標など

- 30日発表 鉱工業生産指数(12月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊
騰落率がマイナスの場合: 😞
騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率	先週の相場動向
2.90%	😊



<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成
東証株価指数(TOPIX)の指数値及びTOPIXの商標は、株式会社東京証券取引所(以下「東証」といいます。)の知的財産であり、株価指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利及びTOPIXの商標に関するすべての権利は東証が有します。

世界の株式市場

市場の動向

海外株式市場全体の動きを表す代表的な指数であるMSCI-KOKUSAI指数は、16日比円ベースで、2.06%上昇しました。
米国株式市場(現地通貨ベース)は、大手企業の決算発表では慎重な見通しもあったものの、ECBによる大規模な量的金融緩和策の発表や、中国の堅調な経済指標などを受け、上昇しました。
欧州株式市場(現地通貨ベース)は、ECBの量的金融緩和策が、毎月600億ユーロの資産購入を少なくとも2016年9月末まで実施するといった内容になり、市場予想より大きな規模となったことなどを受け、上昇しました。
アジア(日本を除く)オセアニア株式市場(現地通貨ベース)は、ECBの量的金融緩和策に加え、10-12月期の中国実質GDP(国内総生産)成長率や12月の中国鉱工業生産指数ならびに小売売上高の前年比伸び率が市場予想を上回ったことなどを受け、上昇しました。

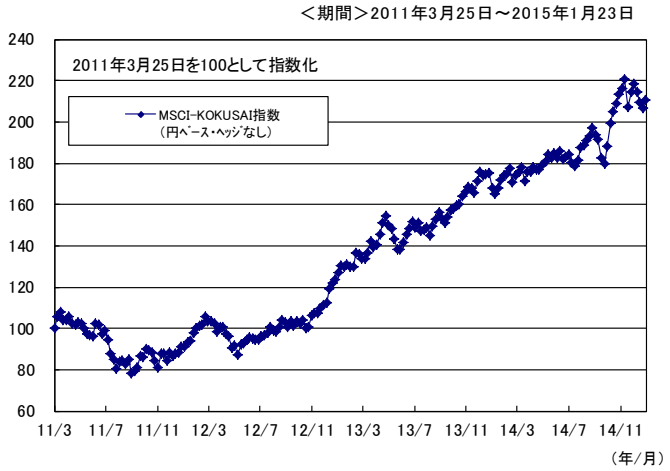
今後発表予定の主な経済指標など

- 27日発表 米耐久財受注(12月)
- 28日発表 米金融政策
- 30日発表 ユーロ圏失業率(12月)
- 30日発表 米GDP(10-12月期、速報値)

など

騰落率がプラスの場合: 😊
騰落率がマイナスの場合: 😞
騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率	先週の相場動向
2.06%	😊



<指数出所>FactSetからのデータを基に野村アセットマネジメント作成
<為替出所>当該日ロンドン時間16時発表のWMOロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成
MSCI-KOKUSAI指数は、MSCIが開発した指数であり、同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

日本の債券市場

市場の動向

日本の債券市場動向を表す代表的な指標であるNOMURA-BPI総合は、16日比で0.65%下落しました。
日本債券市場は、日銀による国債買い入れを背景とする需給の逼迫が改めて意識されたことなどから、上昇して始まりました。しかし、20年国債入札が急速な金利低下に対する警戒感を背景に軟調な結果となったことなどから、下落しました。週末にかけてはECBが量的金融緩和策を決定したことなどを背景に下落幅を縮小しました。週間では下落しました。
長期金利の指標となる10年国債利回りは、16日比で低下(価格は上昇)し、0.23%となりました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 30日発表 全国CPI(消費者物価指数、12月)
- 30日発表 鉱工業生産指数(12月)

など

	2015/1/16	2015/1/23	変化幅
日本10年国債利回り*	0.24%	0.23%	-0.01%

※ブルームバーグ・ジェネリック10年国債利回り

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

騰落率がプラスの場合: 😊
騰落率がマイナスの場合: 😞
騰落率が横ばいの場合: 😐

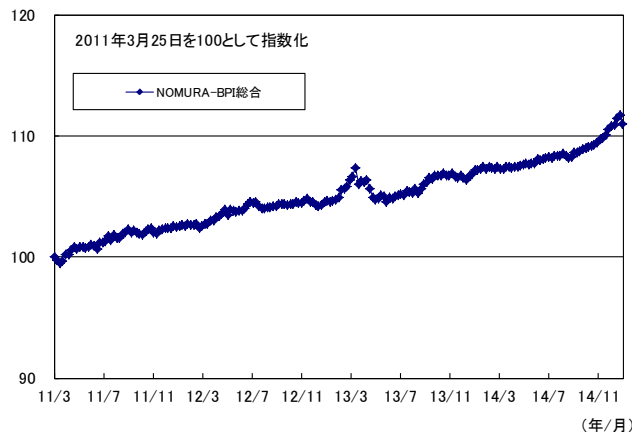
先週の騰落率

-0.65%

先週の相場動向



<期間>2011年3月25日～2015年1月23日



NOMURA-BPI総合	2015/1/16	2015/1/23	騰落率
	367.67	365.26	-0.65%

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

NOMURA-BPI総合は、野村証券株式会社が作成している指数で、当該指数に関する一切の知的財産権とその他の権利は野村証券株式会社に帰属しております。また、野村証券株式会社は、当該インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

世界の債券市場

市場の動向

世界債券市場の動きを示す代表的指数であるシティ世界国債インデックスは、16日比円ベースで、0.41%下落しました。
米国債券市場(現地通貨ベース)は、12月の米中古住宅販売が市場予想を下回ったことや、欧州債券市場で利回りが低下(価格は上昇)したことなどを背景として、債券利回りは低下しました。
欧州債券市場(現地通貨ベース)では、ECBが国債を含む毎月600億ユーロの資産購入策を発表したことなどを背景として、ドイツ国債利回りは低下しました。
為替は、16日比で円/ドルレートは円安・ドル高、円/ユーロレートは円高・ユーロ安となりました。

今後発表予定の主な経済指標など

- 26日発表 独Ifo景況感指数(1月)
- 27日発表 米耐久財受注(12月)
- 27-29日実施 米国債入札
- 28日発表 米金融政策
- 30日発表 ユーロ圏CPI(1月)
- 30日発表 米GDP(10-12月期、速報値)

など

	2015/1/16	2015/1/23	変化幅
米国10年国債利回り*	1.84%	1.80%	-0.04%
ドイツ10年国債利回り*	0.45%	0.36%	-0.09%

騰落率がプラスの場合: 😊
騰落率がマイナスの場合: 😞
騰落率が横ばいの場合: 😐

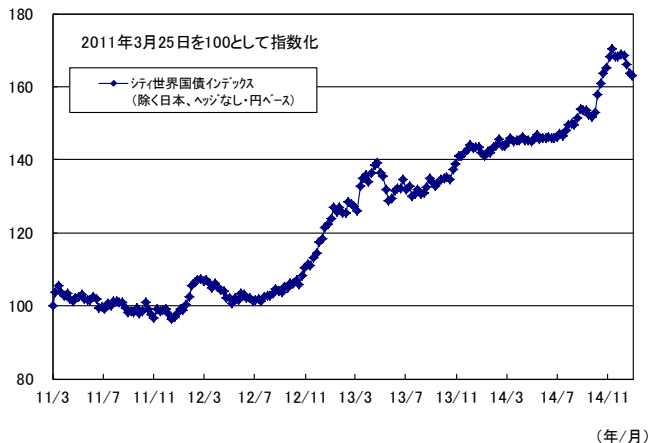
先週の騰落率

-0.41%

先週の相場動向



<期間>2011年3月25日～2015年1月23日



シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)	2015/1/16	2015/1/23	騰落率
	466.46	464.54	-0.41%
円/ドル	117.63円	117.83円	0.17%
円/ユーロ	135.25円	132.55円	-1.99%

<指数出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

<為替出所>当該日ロンドン時間16時発表のWMロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCの知的財産であり、指数の算出、数値の公表、利用など指数に関する全ての権利は、Citigroup Index LLCが有しています。

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

※ブルームバーグ・ジェネリック10年国債利回り

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。 ・REITとは、不動産投資信託証券を指します。

J-REIT市場

市場の動向

J-REIT市場(東証REIT指数(配当込み))は、16日比で1.40%下落しました。一部投資家から売りがあったことなどが背景にあります。

東京証券取引所が12月のJ-REIT市場の投資部門別売買状況を発表しました。金額ベースでは銀行部門、投資信託部門や海外投資家部門が買い越した一方、個人部門や生保・損保部門などは売り越となりました。

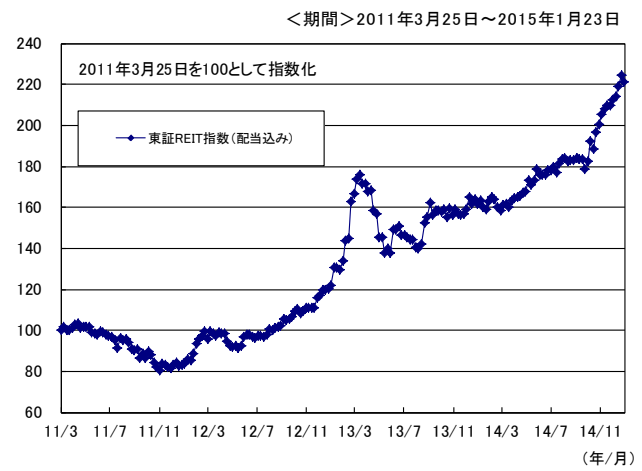
今後発表予定の主な経済指標など

- 30日発表 全国CPI(12月)
- 30日発表 鉱工業生産指数(12月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊
騰落率がマイナスの場合: 😞
騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率	先週の相場動向
-1.40%	👉👈



東証REIT指数(配当込み)	2015/1/16	2015/1/23	騰落率
	3,433.34	3,385.36	-1.40%

＜出所＞ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成
東証REIT指数の指数値及び東証REIT指数の商標は、株式会社東京証券取引所(以下「東証」といいます。)の知的財産であり、東証REIT指数の算出、指数値の公表、利用など東証REIT指数に関するすべての権利及び東証REIT指数の商標に関するすべての権利は東証が有します。

世界のREIT市場

市場の動向

世界REIT市場(S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み))は、16日比円ベースで、1.23%上昇しました。

米国REIT市場(現地通貨ベース)は、ECBが国債購入を含む量的金融緩和策の導入を決めたことなどが好感され上昇しました。

欧州REIT市場(現地通貨ベース)は、ECBが量的金融緩和策の導入を決めたことや、1月のドイツZEW景況感指数が市場予想を上回る伸びとなったことなどから上昇しました。

豪州REIT市場(現地通貨ベース)は、分散型セクター大手REITによる物件買収の発表などが好感され上昇しました。

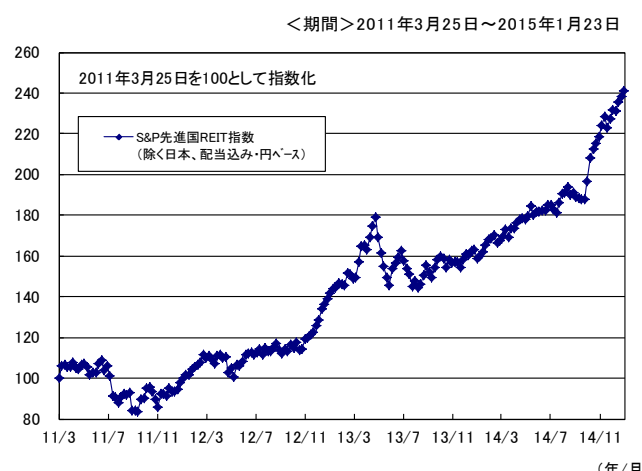
今後発表予定の主な経済指標など

- 26日発表 独Ifc景況感指数(1月)
- 27日発表 米耐久財受注(12月)
- 28日発表 米金融政策
- 30日発表 ユーロ圏CPI(1月)
- 30日発表 米GDP(10-12月期、速報値)

など

騰落率がプラスの場合: 😊
騰落率がマイナスの場合: 😞
騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率	先週の相場動向
1.23%	😊



S&P先進国REIT指数 (除く日本、配当込み・円ベース)	2015/1/16	2015/1/23	騰落率
	931.42	942.84	1.23%
円/ドル	117.63円	117.83円	0.17%
円/ユーロ	135.25円	132.55円	-1.99%

＜指数出所＞ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成
＜為替出所＞当該日ロンドン時間16時発表のWMロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

S&P先進国REIT指数はスタンダード&プアーズファイナンシャルサービシーズエルエルシーの所有する登録商標です。

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

新興国の株式市場


市場の動向

新興国株式市場全体の動きを表す代表的な指数であるMSCI エマージング・マーケット・インデックスは、16日比円ベースで、3.67%上昇しました。
中国株式市場(現地通貨ベース)は、大手証券会社に信用取引口座の新規開設停止処分が下されたことなどから一時的に下落したものの、堅調な経済指標などから上昇に転じました。週間では上昇しました。
ロシア株式市場(現地通貨ベース)は、ECBが大規模な量的金融緩和策を発表したことなどから上昇しました。
ブラジル株式市場(現地通貨ベース)は、ブラジル中央銀行発表のエコノミスト調査で、2015年の経済成長率が下方修正されたことなどから下落しました。
南アフリカ株式市場(現地通貨ベース)は、12月のCPIが市場予想を下回ったことなどを好感して上昇しました。

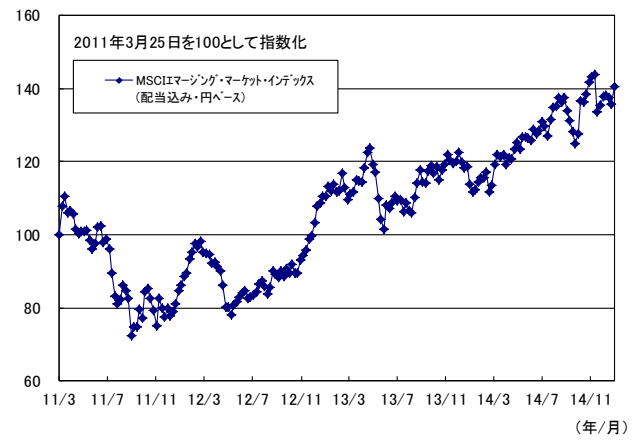
今後発表予定の主な経済指標など

- 28日発表 ロシア実質小売売上高(12月)
 - 29日発表 南アフリカ金融政策
- など

騰落率がプラスの場合: 😊
騰落率がマイナスの場合: 😞
騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率	先週の相場動向
3.67%	

<期間>2011年3月25日～2015年1月23日



MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み・円ベース)	2015/1/16	2015/1/23	騰落率
	1,863.83	1,932.19	3.67%

<出所> FactSetからのデータを基に野村アセットマネジメント作成
MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCIが開発した指数であり、同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

新興国の債券市場


市場の動向

新興国債券市場全体の動きを示す代表的な指数であるJPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドは、16日比円ベースで、1.53%上昇しました。
トルコでは、トルコ中央銀行が主要政策金利である1週間物レポレートに0.5%引き下げ、7.75%とすることを決定しました。このような環境下で、同国の債券指数は上昇しました。
インドネシアでは、足元の原油価格下落の恩恵を受けて、ガソリンの補助金撤廃がスムーズに実行されるなど、財政改善が意識されたことなどから、同国の債券指数は上昇しました。

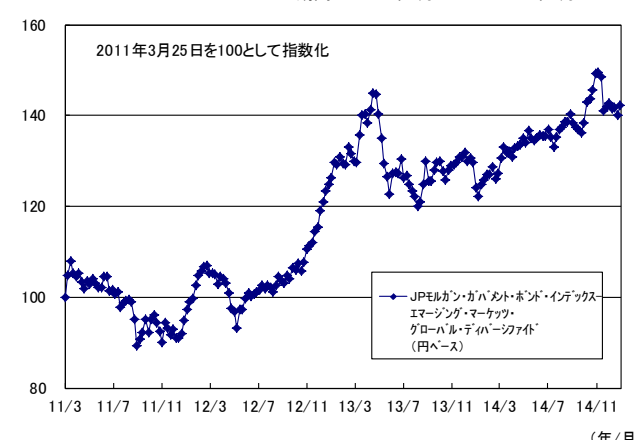
今後発表予定の主な経済指標など

- 28日発表 タイ金融政策
 - 28日発表 マレーシア金融政策
 - 29日発表 南アフリカ金融政策
 - 29日発表 メキシコ金融政策
 - 30日発表 トルコ貿易収支(12月)
- など

騰落率がプラスの場合: 😊
騰落率がマイナスの場合: 😞
騰落率が横ばいの場合: 😐

先週の騰落率	先週の相場動向
1.53%	

<期間>2011年3月25日～2015年1月23日



JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)	2015/1/16	2015/1/23	騰落率
	273.01	277.18	1.53%

<出所> ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成
JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (JP Morgan Government Bond Index - Emerging Markets Global Diversified) は、J.P. Morgan Securities LLCが公表している、現地通貨建てのエマージング・マーケット債を対象としたインデックスであり、その著作権および知的財産権は同社に帰属します。

【野村アセットマネジメントからのお知らせ】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価格が変動します。したがって投資家の皆様のご投資された金額を下回り損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧下さい。

■投資信託に係る費用について

2015年1月現在

<p>ご購入時手数料 《上限4.32% (税込み)》</p>	<p>投資家が投資信託のご購入のお申込みをする際に負担する費用です。販売会社が販売に係る費用として受け取ります。手数料率等については、投資信託の販売会社に確認する必要があります。投資信託によっては、換金時(および償還時)に「ご換金時手数料」等がかかる場合もあります。</p>
<p>運用管理費用(信託報酬) 《上限2.1816% (税込み)》</p>	<p>投資家はその投資信託を保有する期間に応じたかかる費用です。委託会社は運用に対する報酬として、受託会社は信託財産の保管・管理の費用として、販売会社は収益分配金や償還金の取扱事務費用や運用報告書の発送費用等として、それぞれ按分して受け取ります。 *一部のファンドについては、運用実績に応じて報酬が別途かかる場合があります。 *ファンド・オブ・ファンズの場合は、一部を除き、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。</p>
<p>信託財産留保額 《上限0.5%》</p>	<p>投資家が投資信託をご換金する際等に負担します。投資家の換金等によって信託財産内で発生するコストをその投資家自身が負担する趣旨で設けられています。</p>
<p>その他の費用</p>	<p>上記の他に、「組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料」、「ファンドに関する租税」、「監査費用」、「外国での資産の保管等に要する諸費用」等、保有する期間等に応じてご負担いただく費用があります。運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。</p>

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、野村アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、投資家の皆様にご負担いただく、それぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をご覧下さい。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。

商号:野村アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号

加入協会:一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会

当資料は、参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。